

## 2019年3月期2Q 決算説明会 Q&A

2018年11月7日

### 【FY18 1H実績】

Q 制御の受注規模・中身の変化について詳細を伺いたい

A 大口、小口で分けた場合、化学を中心に1Qに引き続いて2Qも小口が堅調であった。1Qは大口受注が伸び悩んだ一方、2Qでは堅調であり、結果的に、大口、小口とも前年度を上回った。海外のエネルギー市場が底を打って回復しているなかで、まず小口が伸びてきて、徐々に大口を受注しつつある状況と認識しているが、ここ数年基本的に大口、小口の構成比に大きな変化はない。

Q CAPEXの投資マインドが回復基調のなかで、具体的に取り組んでいるLNG案件などがあれば教えてほしい

A 個別プロジェクトの進捗は控えさせていただきたい。ただし、我々はLNGのサプライチェーンで実績があり、新設も既設もEPCやエンドユーザーとの関連が深い案件は全て受注を目指し活動する。

Q 粗利率について、コストダウンの進捗と合わせて確認したい

A コストダウンは引き続き今期も継続中。上期もエンジニアリングコストの効率化は順調に効果をあげているが、今年度はこれに加え、物流・調達コストの削減でも実績を上げていきたい。年間の活動としては下期に効果が出てくる活動なのでまだスロースタートではあるが、年間目標15億円でチャレンジしていく。業績予想で粗利率を修正した理由は、価格競争の厳しさをリスクとして織り込むなど、やや保守的に想定したためである。

Q 航機その他事業の減益要因や今後の見通しについて確認したい

A 上期実績には航空ビジネスの開発ジョブで工数がかさみ、引当金を計上したことなどが含まれるが、来年度以降にも影響が残るとは考えていない。航機・その他セグメントとして、来年度は子会社売却によるマイナス影響はあるが、ブレークイーブンが可能と考えている。

### 【FY18 業績予想について】

Q 下期の受注見通しについて確認したい

A 下期に市況が落ちるという認識はない。ただし、上期に前年度からスライドした案件が入っているように、今期末から来期にスリップする可能性が考えられる案件は含めないようにするなど、下期の見通しは少し慎重にみている。

Q 米中貿易摩擦や中東情勢などのリスク要因について確認したい

A 主に3点ある。①中東は、情勢が不安定ななか、プロジェクトや投資が減速する可能性はある。ただし、現状はお客様も長期で計画されているので、その計画を見直さざるを得ないほどの大きな変化が起きなければ、リスクは少ないと見ている。②北米は、今後石化コンプレックス等の案件が見込まれるなか、レイバーコストや材料の高騰などによるFIDの遅れ等を懸念している。③中国はまだ大きな変化を感じていないが、プロセス産業はディスクリート産業から遅効性があるため、今後も注視していかなければいけない。

Q 年間配当予想を据えおいたことも含め、株主還元について確認したい

A 配当予想は業績修正と連動させて変更する考え方ではない。30%以上の配当性向を目指すなかで、最終的に当期純利益の着地などを見極める必要があると考えている。

## **【中期経営計画 TF2020 関連】**

Q ソリューションビジネスの手ごたえを確認したい

A 具体的な事例はお客様の承認がないと言えないが、例えば国内では、制御システムが一切入らずソリューションだけで5億円規模の大きな受注がとれたり、海外は製造管理部分すべてお任せいただき10数億円のプロジェクトが受注できたなどという事例もある。お客様に、当社をDCSやセーフティシステムのサプライヤーとしてではなく、ビジネスプロセスやビジネスパフォーマンスを改善するパートナーとして認識していただく活動を進めるとともに、ビジネス変革を加速させていく。

Q 化石燃料全体を見た場合の中長期的な影響について確認したい

A 化石燃料の今後を中長期で見た場合、例えば中国での石炭から天然ガスへのシフトや、自動車の燃料として石油の需要が減る方向のなかで、天然ガスが過渡期をつないで再生可能エネルギーに向かっていくだろうと考えている。とはいえ、現在はインド、中東、中国などで大規模な石油精製工場の建設がいくつか計画されており、自動車のガソリンではなく、クルドオイルから直接石油化学製品を生産するような流れも生まれている。産油国のみならず東南アジアの化学会社やナショナルオイルカンパニーでも同様の動きがあり、この動きが当面は続くと考えている。しかしながら、超長期的には石油に関するビジネスが縮小していくのはおそらく確実だと思われるので、当社も業種の範囲を拡大し横展開などをしながら、価値づくりの中身を変える必要がある。それを元に成長を作り出していかなければならない。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正しています。

横河電機株式会社 財務・IR部 IR課  
©Yokogawa Electric Corporation